

令和5年 3月定例会 市長提案説明

3月定例会の開催に当たりまして、所信の表明と令和5年度当初予算の施策のあらましを申し上げ、議会及び市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

はじめに、本日、JICAの国際緊急援助隊医療チームの一員として2月12日から24日までの間、トルコ地震の被災地に派遣された本市の職員、保健衛生課所属の佐藤千歳主査（臨床検査技師男性43歳）からその活動の報告がありました。

厳しい寒さなど過酷な状況の被災地到着後、すぐに自分用の野外テントを設営し、自給自足生活をしながら被災者ならびに医療者に対する支援活動に従事してこられました。

このことに対しまして私からは市民を代表して感謝と敬意を表すとともに、「岡崎市民の誇りだ」とお伝えを申し上げました。また佐藤主査には自らの体験やスキルを後進の指導に生かしていただきたいをお願いをさせていただきました。

また、あわせて、亡くなられた方々にこの場をお借り致しまして謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

待ちに待った大河ドラマ「どうする家康」の放送が始まりました。放送初日には、主演の松本潤さんを始め主要キャストの皆様が岡崎を訪れていただき、幸先のよいスタートを切ることができました。

大河ドラマの放送は、必ずしも全国的には認知されていなかった「家康公は岡崎生まれだ」とアピールできる絶好のチャンスであります。ドラマの中では、岡崎城や大樹寺など、岡崎が舞台となるシーンがたくさん放送され、全国から岡崎への注目が集まるとともに、市民の皆様のご関心もますます高まっていることと思います。

観光誘客の柱である「どうする家康 岡崎 大河ドラマ館」が1月21日に盛大にオープンしました。そして同日リニューアルオープンしました岡崎城を含め、岡崎公園に多くの観光客の皆様をお迎えすることにより、エンターテインメントとしてドラマを楽しむことができる岡崎、そして本物の歴史の醍醐味を堪能できる岡崎の両面を打ち出していき、大河ドラマ館の来場者70万人という目標達成に向け、引き続き、市民や観光客の皆様楽しんでいただけるよう取り組んでいきますので、ぜひ岡崎に足を運んでいただくとともに、大河ドラマ館にご来館いただきますよう、お願いいたします。

さて、国においては、「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」を策定するとともに、令和5年度予算は、令和4年度補正予算と一体として、「歴史の転換期を前に、我が国が直面する内外の重要課題に対して道筋をつけ、未来を切り拓くための予算」としています。

本市においても、国の経済対策を積極的に活用し、令和5年度の当初予算の一部を令和4年度の3月補正予算に前倒しして、国の施策に呼応する形で、補正予算と当初予算を一体として予算を編成しました。

令和5年度予算は、『「家康公愛」「岡崎愛」を深め ひとが輝き まちに賑わいが生まれる予算』とし、大河ドラマ「どうする家康」を好機とした地域活性化や本市の魅力向上に取り組んでいくとともに、3年目を迎えます第7次総合計画に掲げる各施策において、着手済みの計画である工業団地造成事業や、アウトレットを核としたまちづくりに加え、少子高齢化を始めとする基本施策にもしっかりと取り組みながら、ゼロカーボンシティやDXの推進といった社会環境の変化にも的確に対応していく予算としております。

なお、「家康公愛」とは260年余りの平和日本の礎を築いた、徳川家康公の生誕の地に住んでいることを誇りに思い、自信を持って岡崎が好きだと言え、好きなまちはもっと良くしていきたいという好循環の力の源泉になるものだと考えています。

新年度予算に計上いたしました主要事業につきまして、総合計画の分野別指針に沿ってご説明申し上げます。

まず、「暮らしを支える都市づくり」であります。

阿知和地区工業団地については、PFI方式で造成事業を行い、令和8年度末の造成完了に向けて、事業者と協力して、事業を進めており、令和5年秋の着工を予定しています。

（仮称）岡崎阿知和スマートインターチェンジでは、アクセス道路となる市道岡崎阿知和スマートインター線の築造工事を進めていきます。

東岡崎駅周辺地区整備については、自由通路及び橋上駅舎などを整備する交通施設整備事業に係る工事実施協定を名古屋鉄道株式会社と締結し、整備に着手していきます。

また、駅ビル及びバスターミナルなどを整備する東岡崎駅北口地区第一種市街地再開発事業については、令和6年度の駅ビル解体着工に向け、権利変換計画の作成を進めていき

ます。

本宿駅周辺地域では、3月末に市街化区域への編入が予定されており、これにより事業の許認可の手続きが進んでいきます。

広域観光交流拠点では、アウトレットモール事業者による進出計画とともに骨格となる道路の整備計画が着実に進んでいます。本市としても、隣接する地域拠点で計画中の土地区画整理事業において、令和6年度の組合設立認可申請を目指し、事業化検討パートナー及び発起人会とともに公民連携による魅力あるまちづくりの計画及び事業化に向けた検討を進めていきます。

矢作公園では、老朽化した施設と市民ニーズを反映させた大屋根の設置などの再整備に向けた設計を進めていきます。

地域内交通では、六ツ美中部学区の「チョイソコおかざき」、矢作地域の「矢作デマンド」の実証運行をするなど、よりよい地域公共交通ネットワークの実現を目指していきます。

また、大河ドラマ館オープン期間中の周辺の交通渋滞緩和のため、公共交通機関の利用促進と合わせて、河川敷における次世代モビリティの活用を進めていきます。

次に、「暮らしを守る強靱な都市づくり」であります。

道路の整備につきましては、国・県道などと連携した道路ネットワークの形成、地域交流の円滑化及び歩行者等の安全を図るため、岡崎環状線や矢作川右岸南北道路ほか3路線の整備を進めるとともに、国の事業となりますが、国道1号における無電柱化や歩道・車道の拡幅事業についても促進してまいります。

道路施設の老朽化により年々維持管理費が増加しているため、効果的かつ効率的な維持管理の実現を目指し、点検を早期実施することにより、大規模な修繕に至る前に対策を講じることで、「事後修繕」から「予防保全」の維持管理体制に切り替え、道路施設の長寿命化に努めていきます。

また、近年の気候変動により頻発・激甚化する自然災害に対し、市民の命と暮らしを守る強靱な都市づくりを目指し、北本郷支川や六斗目川改修に向けた設計など、各地域における浸水状況の調査や確認を行い、河川・排水路の改修を着実に進めていきます。

水道事業については、市民生活や社会経済活動に不可欠な重要なライフラインであるため、平時はもちろんのこと、地震、台風などの自然災害や水質事故などの非常事態においても、被害影響の最小化や早期復旧、水供給の継続・補完が可能となるよう、基幹的な水

道施設の安全性確保や基幹管路網の再構築及び配水区域のブロック化を進め、上水道全体の強靱化を図っていきます。

下水道事業については、今後進めていく八帖雨水ポンプ場更新に関連する八帖北幹線及び愛宕幹線、大平北幹線などの整備により、浸水被害の軽減を図ります。地震に強い下水道施設とするため、重要な幹線などにおける管渠の耐震化工事を行うとともに、老朽化した下水道管渠及びポンプ施設の長寿命化として、老朽管渠の改築工事や大門雨水ポンプ場、赤渋雨水ポンプ場の改築工事を行っていきます。

また、令和5年度に下水道事業 100 周年を迎えます。マンホールサミット開催や関連事業により下水道を身近に感じていただけるように普及啓発を図っていきます。

次に、「持続可能な循環型の都市づくり」であります。

ゼロカーボンシティの推進に向けては、環境省から選定されました脱炭素先行地域の事業が令和5年度から本格的にスタートします。

岡崎中央総合公園を始めとした公共用地や民間施設へ大規模な太陽光発電設備を整備する事業者向けの補助を行います。発電した電気はその場で自家消費するほか、株式会社岡崎さくら電力を通じて脱炭素先行地域へ供給していきます。

さらに、中央総合公園への大規模な蓄電池の整備とエネルギーマネジメントシステムの構築によって、再生可能エネルギーの最大限の活用と地域内消費を推進していきます。

地消地産・消費者交流の推進として、市内農林畜産物で唯一岡崎の地名がつく純国産地鳥「岡崎おうはん」を、新たな地域ブランドとして確立するため、引き続きその魅力や価値を市内外へ広く発信し、岡崎おうはんの認知度の向上、需要の拡大に取り組んでいきます。

また、農林業祭を始めとした本市農林産物の PR イベントのほかに、新たに「1万人鍋」の開催を計画しています。

この「1万人鍋」は、生産者、消費者、事業者が協働・連携し、岡崎の八丁味噌や地元食材を使用した豚汁を市民や大河ドラマ「どうする家康」に伴う観光客などに振る舞い、本市農林産物の魅力の発信に取り組んでいきます。

中山間地域の支援については、令和4年3月に策定しました「岡崎市中山間地域活性化計画」に基づき、「住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みづくり～オクオカ イノベーション」を推進していきます。

次に、「多様な主体が協働・活躍できる社会づくり」であります。

市民の皆様が、安全で安心して暮らすことができるように、防犯対策として、特殊詐欺対策装置購入補助、交通安全対策では、高齢者安全運転支援装置設置促進事業補助や自転車乗車用ヘルメット着用促進事業補助を令和5年度においても継続して実施していきます。

次に、「健康で生きがいをもって活躍できる社会づくり」であります。

地域福祉センターでは、世代や属性に関わらず包括的な相談を受け止めるまちのふくしサポート室の機能を追加するとともに、60歳未満のかたも利用できるようにするほか、地域福祉センターのありかたを検討し、「ごちゃませ福祉」を目指していきます。

重症心身障がい者支援においては、障がい福祉サービス事業所内において喫煙吸引ができる人材を確保するために、研修受講の必要経費を一部補助し、医療的ケアを必要とする重症心身障がい児・者の事業所の受入れ体制整備を支援していきます。

また、相談支援利用者の増加に対応するため、委託相談支援事業所を増やし、体制の強化を図るなど、障がい児・者が自立した日常生活や社会生活を営むための支援を引き続き行っていきます。

障がい者へのタクシー利用助成においては、障がい程度が交付の要件に該当すれば自動車税減免制度を受けているかたも対象とするほか、タクシー券の交付方法を窓口交付から郵送交付に変更するなど利便性の向上を図ることで、移動が困難な障がい者の外出機会の確保と社会参加の促進に寄与していきます。

殺処分頭数を減少させるため、動物愛護寄附金を募集し、飼い主のいない猫に対する避妊や去勢手術費用の一部を補助いたします。

新型コロナウイルス感染症対策では、感染拡大の周期的な発生に備えるとともに、国の「With コロナ」政策を踏まえ、重症化リスクの高いかたに対する健康観察の重点化と高齢者施設などの感染拡大防止、また、「岡崎市健康フォローアップセンター」における自宅療養支援に取り組んでいきます。

新型コロナウイルス感染症は、本年5月8日に感染症法上の位置づけが新型インフルエンザ等感染症から季節性インフルエンザ並の5類に緩和される方向が示されました。現在、国において医療費の自己負担や医療提供体制について段階的な移行の検討が進められており、近いうちに方針が示される予定です。

予防接種については、80歳までに3人に1人が発症し、強い痛みのほか、神経症状や後遺症などを伴うと言われる帯状疱疹の予防を目的に、50歳以上のかたを対象に、新たに帯状疱疹予防接種費用の一部を助成していきます。

さらに、積極的勧奨を再開した子宮頸がん予防接種については、新たに9価HPVワクチンの定期接種を実施し、定期検診の啓発とあわせて子宮頸がんの予防を進めていきます。

また、中学3年生と高校3年生の年齢に相当するかたは、多くが受験や就職などを控えており、感染の不安を少しでも取り除くため、引き続き、インフルエンザワクチン接種の補助を行っていきます。

本市では、がんになっても安心して暮らせる社会の実現を目指し、令和3年度に愛知県に先駆けて、アピアランスケア用品購入費補助事業を開始しました。令和4年度にはウィッグに加え、新たに乳房補正具を対象品目としました。今後もアピアランスケア用品購入費補助事業を継続してまいります。

核家族化が進み、地域とのつながりも希薄になる中で、孤独感や不安感を抱える妊婦・子育て世帯も少なくないため、経済的支援と伴走型相談支援の充実を一体的に実施し、妊婦や子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境を整備していきます。

岡崎市民病院では、来院者の駐車場不足を解消するための「駐車場整備工事」や駐車場の空車状況を周知するための「駐車場満空表示盤設置工事」のほか、患者相談、入退院支援などを集約した患者サポートセンターを新設するための改修工事を実施するとともに、最新医療機器を導入し、引き続き市民に高度な医療を提供できる病院として、信頼にこたえていきます。

今後とも、医療の質の向上、人材の育成に努めるとともに、良質ながん医療・高度急性期医療を主軸に安全安心な医療を提供していきます。

次に、「女性や子どもがいきいきと輝ける社会づくり」であります。

市民と協働して子育て施策を推進するため、本市の子育て施策や環境整備に関する意見を聴取するイベントを開催していきます。また、令和4年6月に開催した「みんなの声で作る！おかざきこそだて会議」で明らかとなった子育てに関する課題を解決するため、男性が家事や育児に参画できる社会気運醸成のためのセミナーの開催と男性の育児休暇取得に関する本市独自の啓発冊子を作成し、配布いたします。加えて、参加型ワークショップにおいて子育て世帯から多くの意見が寄せられた使用済紙おむつの廃棄については、保育

園・こども園に通う保護者の利便性の向上と保育士の負担軽減につながることから、令和5年度から各園で実施していきます。

おむつのサブスクサービスについても、おむつの廃棄を実現させた上で、令和5年度中の導入を予定しています。

また、子育て短期支援事業では、保護者の病気や出産などで一時的に家庭での養育が困難となった場合に、児童福祉施設での預かり委託を実施してきましたが、新たに里親を委託先に追加します。これにより、子どもがより家庭養育に近い環境で過ごせるようになるなど利便性を向上させ、子育て家庭の一層の負担軽減を推進していきます。

次に、「誰もが学び活躍できる社会づくり」であります。

美術博物館では、7月1日よりNHK大河ドラマ特別展「どうする家康」を開催し、家康の生涯をたどります。家康が決断を迫られた事件や家康に影響を与えた人物に関する資料も出品される予定でありますので、大河ドラマ館だけでなく、美術博物館での「どうする家康」の世界観も存分にご堪能ください。

また、子美博の愛称で親しまれている岡崎地域文化広場は、親子で遊べる人気の施設で、絵画や粘土、工作をする親子造形センターがあり、雨の日でも親子連れでにぎわっている施設です。また、市内の特別支援学級や特別支援学校などに通う子どもたちから寄せられた作品を中心に紹介している「子どもたちのアール・ブリュット」は、公共施設では初となる常設展であり、多くのかたが視察にみえます。子育て家庭からの「遊び場の充実」の要望を受けて、天候に左右されずに遊べるよう、ふれあい広場に大屋根を設置するための測量や設計を行っていきます。

令和4年度に実施しましたWRCの盛り上がり継続するため、開催地である自治体としてのプロモーション及び実施に関する協力を行い、気運を高めるとともに、国際スポーツ大会といった世界トップレベルの技術が見られる場を市民に提供することにより、スポーツの裾野拡大やスポーツ意欲の高揚を図り、『スポーツで「まち」を元気にする』を実現するため、地域経済の活性化などにも貢献していきます。なお、市にゆかりのあるアスリートに関する品を常設展示する「岡崎市アスリートギャラリー」を2月25日から岡崎中央総合公園総合体育館エントランス内に設置しております。

また、福岡小学校グラウンドへの夜間照明の設置や本市初となる専用コース36ホールのマレットゴルフ場を新設していきます。

さて、市長就任以来進めてきました少人数学級については、4月から市内公立小学校での32人学級がスタートします。令和5年度はまず小学1年生への導入を実施し、今後市内公立小学校において32人による学級編成を段階的に進めていきます。

また、児童生徒にICTを活用した質の高い授業やオンライン授業などの新たな学びを提供するため、「岡崎版 GIGA スクール構想」をより拡充し、令和4年度に市内全公立中学校に電子黒板を配置したのに続き、令和5年度は、全公立小学校の4年生から6年生の普通教室に電子黒板の配置を進めていきます。

部活動の地域移行では、指導に当たる教員の負担を軽減するために、部活動指導員を60人増員し、76人に拡充するとともに、多くの運営団体や実施主体が連携を図りながら、部活動の地域移行を実現するために、学校体育及び地域スポーツに知見を有する者をコーディネーターとして委嘱し、部活動の地域移行を実現するための方策の検討や支援を行うほか、地域スポーツクラブ活動の運営団体や実施主体の整備充実のため、持続可能な運営に向けた体制整備や質の確保に係る取組を行っていきます。

中学校の校内フリースクール「F組」については、さらなる長期欠席対策の推進を図るため、6校拡大し、全中学校20校に設置するほか、スクールソーシャルワーカーについては、2名増員し、アドバイザーを含む14名体制とし、教育相談体制の充実を図っていきます。

市内公立中学校へ自転車で遠距離通学する生徒の負担軽減を図るため、自宅から中学校までの片道の距離が6キロメートル以上となる生徒などを対象として、通学に使用する電動アシスト自転車の購入費の一部を補助する制度を新たに創設します。令和5年度末をもって額田中学校の敬信寮が廃寮となり、自宅からの通学となることから、その代替え手段の一つとしても活用いただけるものと考えています。

学校給食費の無償化につきましては、平成28年度より4月1か月の無償化を先進的にスタートさせ、令和5年度においても、引き続き、実施することで子育て家庭への負担軽減に努めてまいります。現時点における無償化拡大の考えはございませんが、全中学校へのフリースクールの設置、中学校及び小学校上学年への電子黒板の配置など「岡崎版 GIGA スクール構想」の拡充、少人数学級や部活動の地域移行といった様々な施策を通じ、「教育の岡崎」だと言っていただけのような、将来を担う子どもたちへの取り組みを進めてまいります。

次に、「商業と観光が成長産業となる地域経済づくり」であります。

ふるさと納税では、寄附額の増額に向け、魅力的な商品や高額商品の返礼品の発掘、提供をしていくほか、新たに「PayPay 商品券」や大河ドラマ関連の新商品を返礼品に加え、効果的な広告掲載など、新たな岡崎ファンの獲得と事業者の支援を両立していきます。

また、大河ドラマ「どうする家康」の放送を契機にお店や事業所のファン・リピーター作りに取り組む登録店舗や事業所を「家康印」と命名し、アフター大河を見据え、商品・サービスの魅力向上や店舗の持続的な経営につなげるための情報発信・出展支援に加え、3月末に開設します EC サイト「岡崎市公式セレクトショップ オカフル」も活用し、全国の消費者に向けて岡崎の魅力を発信していきます。

令和4年度は、コロナ禍で開催を見合わせていた花火大会や家康行列などのイベントを3年ぶりに開催することができました。大河ドラマの放送も始まり、市全体が盛り上がりを見せている中、令和5年度は本格的な観光イベントの再開を目指していきます。特に、毎年、春に開催しております将棋まつりは、次回で30回の節目となることから、地元愛知県瀬戸市出身の藤井聡太竜王はじめ多くのトップ棋士をお迎えし盛大に開催するよう、鋭意、準備を取り進めているところです。

また、令和5年度は、本市へ誘客を図る絶好の機会となるため、「アフター大河」を見据えた地域経済の活性化を目指し、デジタル技術を使い、スマートフォンなどで簡単に楽しめる謎解きイベントを始め、幅広い世代のかたに市内を周遊していただけるような各種事業を展開していきます。

次に、「ものづくりが柱でありつづける地域経済づくり」であります。

産業立地誘導地区の一つである小針地区において、開発要件に適合する道路拡幅のための業務を引き続き実施し、同地区における計画性のある産業立地を推進していきます。

最後に、「スマートでスリムな行政運営の確立」であります。

デジタル化の推進では、令和4年3月に策定しました「おかざきDXビジョン」に基づき、証明書の電子申請や手続き窓口でのキャッシュレス決済など、市民の利便性向上を図るとともに、デジタル人材の育成により業務の効率化を目指すほか、担い手不足が懸念される町内会活動や子育て世代の暮らしに役立つデジタル技術の活用方法について検討をスタートさせ、地域の課題解決も目指していきます。

以上、主要事業について、ご説明させていただきました。

続いて本議会に提案をいたしております議案について、説明をさせていただきます。

まず、条例議案でございますが、制定条例といたしましては、物価高騰により実質賃金は下落し、生活が圧迫されているという現下の市民生活に鑑み、令和6年3月末まで、引き続き、市長等の給料を減額する「岡崎市長等の給料の月額の特例に関する条例」、1件でございます。

次に、改正条例といたしましては、マンションの管理の適正化の推進に関する法律の一部改正に伴い、新たに処理することとなる事務に係る手数料の額の設定等を行う「岡崎市手数料条例」、出産育児一時金の支給額及び保険料の後期高齢者支援金等賦課限度額を引き上げるとともに、保険料の軽減対象を拡大し、保険料賦課の適正化を図る「岡崎市国民健康保険条例」など計9件で、合わせて10件を提案させていただいております。

その他議案といたしましては、岡崎駅西口自転車等駐車場用地活用事業に係る施設の用地の「無償貸付け及び減額貸付け」、譲渡公営住宅に係る転貸借関係を解消するための「財産の交換」についてなど3件を提案させていただいております。

次に、補正予算について、主なものを説明させていただきます。

一般会計は、各事業の契約差金などに伴う減額のほか、送迎用バスなどへの安全装置の装備の義務化による送迎用バス等安全装置導入費補助金の計上、新規陽性者数が見込みを上回ることによる新型コロナウイルス感染症自宅療養者医療体制確保協力金の増額、肥料価格の高騰により影響を受けている農業者に対する支援金の増額、将来の財政需要に備えるための財政調整基金や計画的に保全工事を進めるための公共施設保全整備基金などへの積み立て、事業の進捗に合わせた継続費や繰越明許費の追加及び変更などをお願いしております。

また、国の補正予算などにより、岡崎小学校などの大規模改修工事に関わる校舎等特別整備工事請負費のほか、小中学校の屋根・外壁や便所の改修を行う施設保全工事請負費の増額などをお願いしております。

企業会計の下水道事業では、国の補正予算による 管渠施設築造工事費や管渠施設改良工事費などの増額をお願いしております。

以上が、本議会に提案をいたしました議案の概要であります。

さて、岡崎駅西口自転車等駐車場用地の活用については、公民連携手法をもって、11月に優先交渉権者が決定し、カフェ&バー、美容院、飲食店などが入る木造平屋建ての商業店舗、公衆トイレ、喫煙所、自転車等駐車場などを整備する提案がされました。

商業施設や駐輪場などの民間複合施設として再整備することにより、駅前に賑わいを創出し、機能性・安全性・利便性の高い駅前空間としていきます。

複合施設の整備期間中については、仮設駐輪場を供用し、東口駐輪場と併せて、岡崎駅周辺の安全で快適な駐輪環境の維持、放置自転車の抑止、良好な都市景観の確保を図っていきます。

令和5年度に工事を着工し、令和6年度の春以降に岡崎駅西口の新たな拠点として開業する予定です。

最後になりますが、市長に就任し、2年半が過ぎようとしています。就任以来、「開かれた明るい岡崎」を目指し、一貫して、市民の皆様のお声を十分に聴き、市民の皆様にご理解いただくために、市民参加型の市政を目指してまいりました。

そのため、私自身もできる限り市民の皆様から直接意見をお聞きしたいという思いから、支所単位で意見交換をする「まちづくりエリアミーティング」や、私自らまちづくりの考えかたや思いをお伝えする「市長出前講座」を実施し、「声なき声」「小さな声」を聴きもたらず、誰一人置き去りにしない、日本一の幸せを実感でき、「日本一の好循環を生み出すまち」を目指しています。

少子高齢化社会の進展などの社会環境の変化に伴って、市民の皆様が抱える問題や生きづらさは、より複雑化かつ多様化しています。岡崎の強みの一つは多様性から生まれる活力であります。市民お一人お一人いろいろな幸せのありかたがあるはずです。

市民お一人お一人に徹底的に寄り添い、市民お一人お一人の幸せづくりを全力で応援できる岡崎市でありたいと考えており、引き続き、市民福祉充実に向けて強い思いで取り組んでいきます。

また、大河ドラマをきっかけとした「with 家康公」「after 大河」の取り組みを、2023年の柱の一つに位置付け、大河ドラマがもたらす盛り上がりをも市民全体で共有し、2023

年の岡崎が、人やまちが活気づく1年、まさしく「どうマチックイヤー」となるよう取り組んでいくとともに、その効果が一過性とならないよう、「after 大河」を見据えてしっかりと進め、岡崎の魅力発信と地域経済の活性化に取り組んでいきたいと考えています。その際には、未来の岡崎の主役である若者の声をしっかり反映してまいります。

以上、ご説明を申し上げますとともに、提出をいたしております諸議案につきまして、よろしくご審議の上、ご議決を賜りますようお願い申し上げます。私の説明を終えさせていただきます。ありがとうございました。